



京方見附跡：京都まではまだまだ先

京方見附の当時の様子は、江戸時代の画家・歌川広重が描いた錦絵「東海道五十三次之内 平塚繩手道」で知ることができます。高麗山を背景にずっと続く一本道。道沿いに平塚

⑥ 錦絵に描かれた京方見附

豆記者

早川 萌  
田上 雄大  
高田 春菜

車の通行が多い古花水橋の交差点付近には昔、平塚宿の西側の入り口・京方見附がありました。現在は「従東 東海道平塚宿」と書かれた石が置いてあります。



西組問屋場跡：平塚宿の錦絵、きれいだな

お殿様はかごに乗ったり、家来は馬に乗ったり歩いたりして旅をしたようですが、荷物はごうやって運んだのでしょうか？

⑤ 荷物の中継基地・西組問屋場

豆記者

山口 晃穂  
磯部 恵

宿場町には、問屋場という荷物の中継基地のようなものがありました。平塚には東組問屋場と西組問屋場の

京方見附付近は今、古花水橋という名前の交差点になっています。これは昔、このあたりに橋があったことからきています。実は昔このあたりを川が流れていました。その川と

⑦ 山筋が今と違う？古花水川

宿の入り口を知らせる木の標識が立っていて、横を三人の人が歩いていきます。人を運ぶ籠屋と手紙を配達する飛脚です。タクシーやオートバイのない時代だったから、みんな自分の足を使って、人やものを運ぶ仕事をしていたんですね。



ずいぶん景色が変わったんですね

二つが、ありました。わたしたちは、高級旅館・本陣の陣跡の西にある西組問屋場跡に行きました。この問屋場を人や馬がリレーみたいに交代で荷物を運んだのです。昔は自動車や電車がなかったで、重い荷物を遠くまで運ぶのは大変なことだったでしょう。わたしたちは、問屋場で荷物を受け渡すときに使った印鑑を見せてもらいました。手に取ってみると、昔の人が苦勞しながらも、みんなで協力して荷物を運んだ姿が思い浮かびました。

平塚宿問屋場印：左から読んでみて



今の花水川の流れは人の力で造ったんだよ

は：なんと花水川です。今の花水川の川筋は、江戸時代に工事して造られたものなんだそうです。江戸時代に富士山が大噴火したとき、火山灰がいったい降り、このあたりは洪水が起こりやすい土地になってしまいました。そこで、昔の私たちは、洪水を防ぐために一年くらいかけて今の川筋に変えたそうです。みなさんは、大磯町の土地が花水川から少し平塚寄りにもあることを知っていましたか？これは昔の花水川が今と比べて平塚寄りを流れていた証拠なんです。おもしろいですね。



平塚の塚：大きな石碑だね

平塚の地名の由来は？

みなさんは、平塚という地名がなぜできたか知っていますか。その昔、桓武天皇の孫・高見王の子である平政子が、東国に行く途中にこのあたりで亡くなったためにお墓が造られました。昔はお墓のことを「塚」といいました。この塚がいつしか平らになったので、平塚の名が付いたと言ひ伝えられています。

現在、その塚があったとされる場所は、きれいな公園になっています。碑が立っています。そこに立ってみると、生まれ故郷ではなく旅先で亡くなってしまった政子さんの悲しさが伝わってきました。